

920MHz 帯マルチホップ無線ネットワークを利用した 「河川監視システム」を開発

局地的豪雨や季節外れの豪雨などの異常気象により、過去の経験値からは予測不可能な河川の氾濫が数多く発生している。OKIは、その解決策として、設置が容易な920MHz帯マルチホップ無線ネットワークを利用し、河川の水位状況をリアルタイムで把握できる「河川監視システム」を開発した。

本システムは、観測ポイントで定期的にデータを収集し、河川水位の状況変化をリアルタイムに確認することで遠隔地での「見える化」を実

現するものだ。たとえば、観測ポイントに設置した各種センサー（雨量計や水位計など）のモニタリングデータを、920MHz帯無線中継局を経由して監視センターへ送信する。監視センターでは、観測ポイント各所からのモニタリングデータが収集・蓄積される。そして、これら各所のリアルタイムデータを入手することにより、水害の恐れのある地区や状況を把握し、付近の住民に対してより迅速な情報配信を行う。

OKIは、中小規模河川による水害

の多い自治体を対象に、2014年度末までに本システムの商品化を目指していく。また、収集した観測ポイントのデータを降雨・水位予測などと組み合わせることで、河川各所の水門開閉バランス最適制御に必要な判断情報の提供や、氾濫予測による退避誘導情報の配信をサポートする機能拡張なども計画している。

●OKI 社会システム事業本部

TEL : 03-5445-5022